

教育心理学教室教官の研究状況報告

在は教員需供システムの研究としての解析と報告書作成を並行で行なっている。

3. 県民性の統計的研究—1970, 1971の調査結果, 岩手, 東京, 大阪, 山口, 鹿児島—数研研究リポート30 (1972. 7)

4. 進展していない。
なお、本年度は
5. 検査法における統計的問題について検討を始めた。
(1972年11月30日)

(1972年11月30日)

研究概況の報告(1972年2月以降)

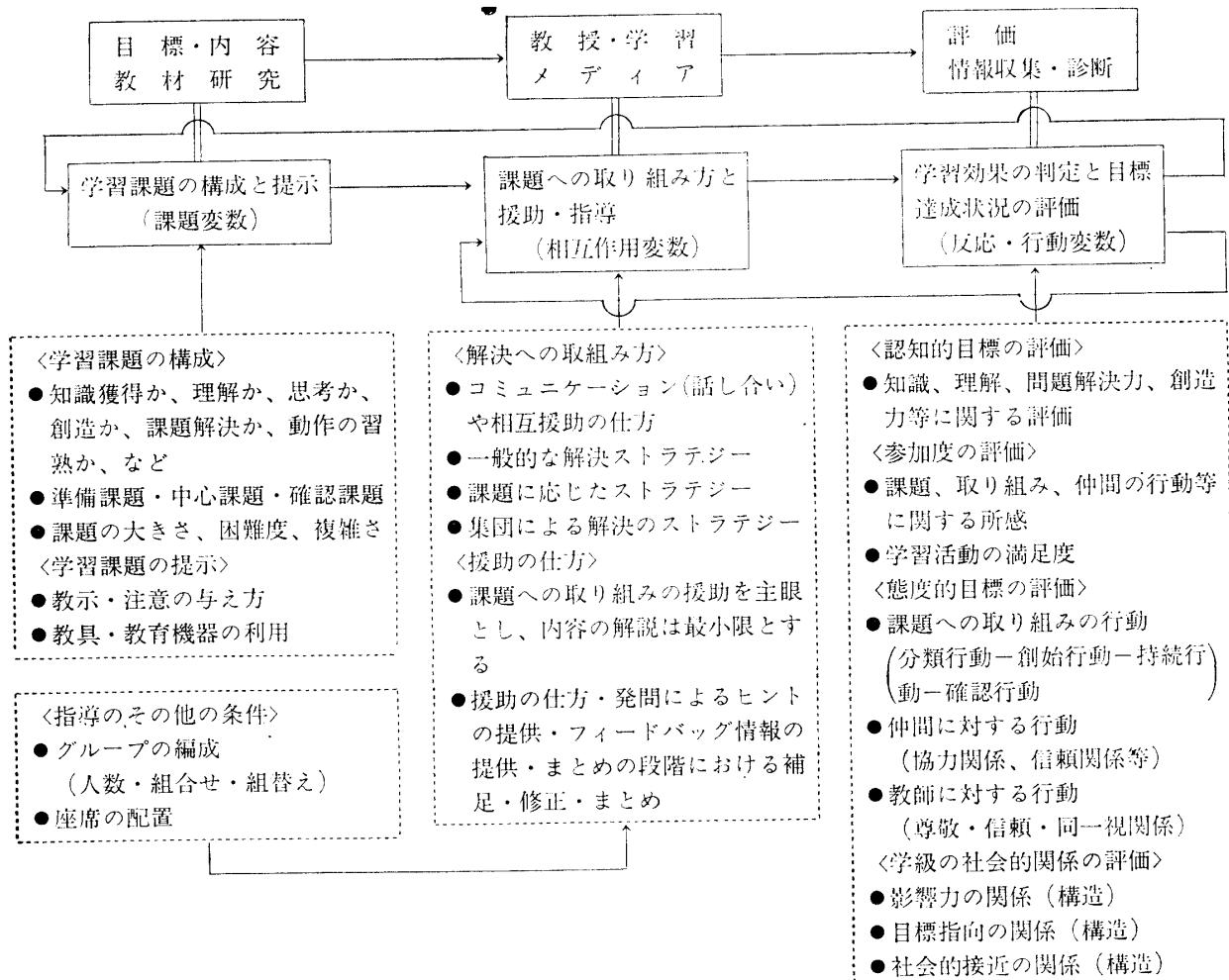
塩田芳久

1. バズ学習の実践的研究——この研究は、現場との共同研究として、ここ数年来継続的に実施しているものである。本年度は、全国各地の実践校が一堂に会して、それぞれの研究成果を交換したり、問題点や困難点の共同解決を計画したりするための全国集会が8月(第4回)と11月(第5回)の2回にわたって開かれた。8月の集会は中学校を中心として広島県の豊浜中学校において、また、11月の集会は小学校を中心として長崎市の磨屋小学校でそれぞれ開かれた。これらの集会における研究成果は、それぞれ「バズ学習の実践的研究・第4集」およ

び「バズ学習の実践的研究・第5集」としてまとめる予定である。

2. バズ学習の基礎的研究——これまでの研究は、必ずしも指導=学習過程の全体的構造の中に的確に位置づけられたものとして計画、実施されなかった。したがって、研究はややもすると単発的なものとなり、相互の関連や全体的な視点からの検討に充分でないところがあつた。そこで、図表のような「バズ学習による指導=学習過程の分析表」を作成し、これに基づいて、これかららの研究を全体構造の中に位置づけて計画、実施することと

バズ学習による学習＝指導過程の分析表



教育心理学教室教官の研究状況報告

した。この分析表はなお検討を要する点がすくなくないと考えられるので、今後より完全なものにしていくよう努力したい。

3. 集団課題解決に関する研究Ⅱ——この研究は、「名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科—第18巻、1971年」所載の塙田外「集団課題解決に関する研究（I）」に統いて、計画実施されたものである。研究成果の一部は第14回日本教育心理学会総会（1972・10・12—14、お茶の水女子大学）において報告されたが、近く全体をまとめて学会誌（実験社会心理学研究）に投稿の予定である。なお、この研究は、前記2の「バズ学習の基礎的研究」のところで述べた「指導—学習過程の分析表」をも参考にして計画されたものであり、その意味では「バズ学習の基礎的研究」として位置づけることもできるであろう。

4. 親子関係に関する研究——この研究は名古屋市の

家庭教育問題調査委員会の調査研究の1部として実施されたものである。ここでの問題は、親子間の「価値構造」の特徴をとらえ、いわゆる親子の断絶の1侧面を明らかにすることにある。個人—社会価値志向と現在—将来価値志向の2つの尺度を構成し、これによって親子の価値構造を記述するとともに、他方では、親子間の信頼関係、親和関係など人間関係の特徴との関連を明らかにしようとする。目下価値尺度を作成中であるが、本調査の実施は本年度末（48年3月）の予定である。

5. 学級集団に関する研究——この研究も従来からの継続的な研究であるが、本年は大学院修士課程2年田中康雄君の修士論文研究計画の中に組み入れて、これまでの学級の社会的構造に関する記述の妥当性を検討することとした。結果は、田中康雄との共同研究としてまとめたいと考えている。

（12月1日）